

P-01 1923年関東地震に関する石碑が建つ埼玉県幸手市の神明神社周辺にお住いの方を対象としたアンケートによる地震の意識調査（篠田海遥・他（栄東高等学校））

【調査実施の目的】

関東地震のことや今後の地震への備え（防災の対策）に関して、地域の方々と情報を共有し、お互いに地震・防災に関する意識をより一層高め合うため

【調査対象地域】

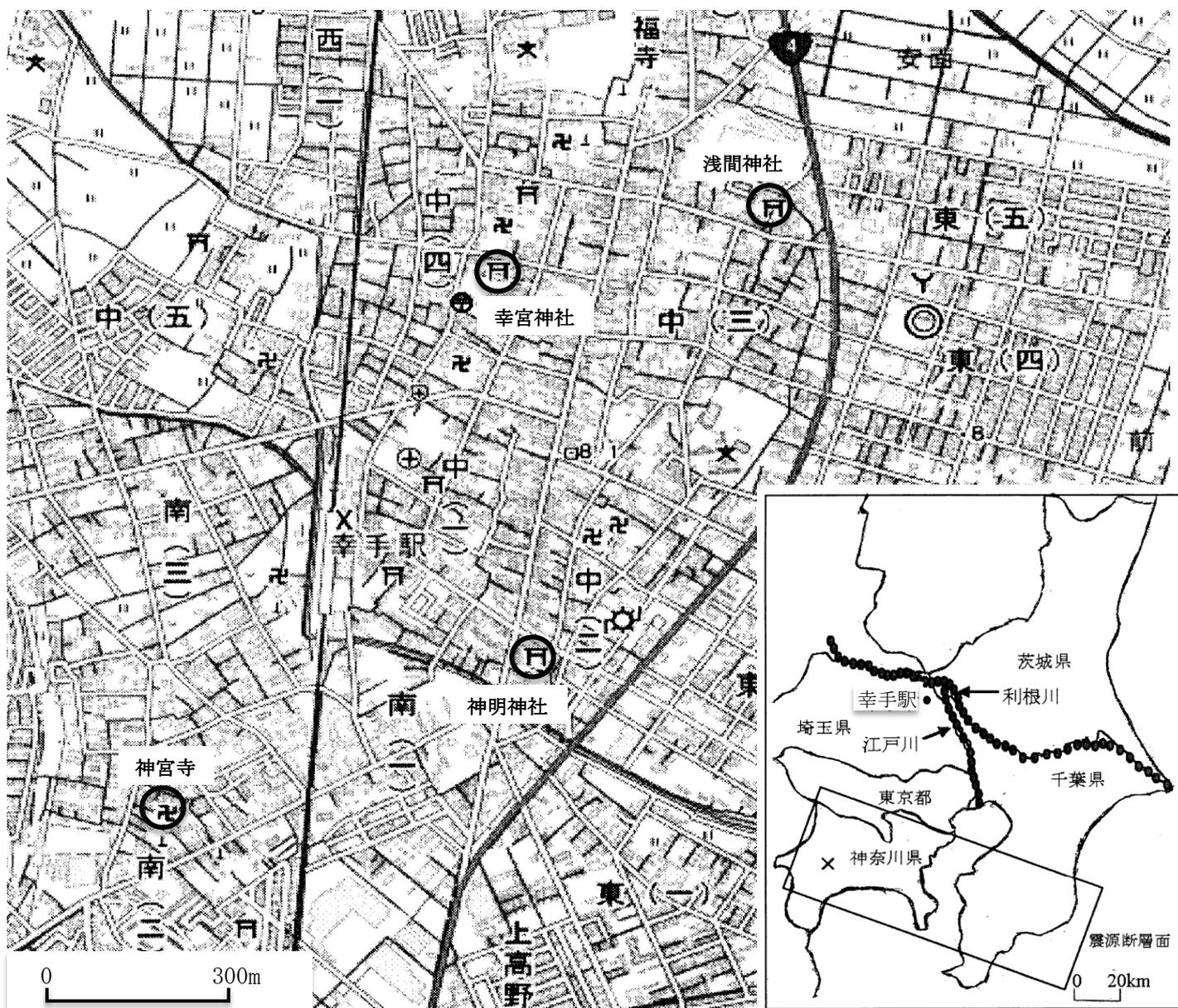
幸手市 中一丁目・中二丁目・東二丁目（神明神社（中2-1-5）の周辺）

【アンケート調査の実施日・方法（3回にわたって実施）】

- ・7月13日（土）質問票を配布し、郵便による返送またはインターネットによる回答を依頼
- ・7月19日（金）訪問調査（口頭での聞き取り調査）
- ・7月27日（土）2回目と同様の方法で実施

【得られた回答数】

訪問調査、郵便での回答、インターネット回答を合わせて90世帯



国土地理院 地図に加筆

地震・防災に関する意識向上を目指したアンケート調査の結果

(質問および得られた回答)

質問 1. 関東大震災 (1923年 (大正12年) 9月1日に発生) をご存じですか。

はい・いいえ
84人 6人

(質問 1 で<はい>と答えた方)

質問 2. 関東大震災において、幸手市内でも被害が生じたことをご存じですか。

はい・いいえ
26人 58人

(質問 2 で<はい>と答えた方)

質問 3. 幸手市内で具体的にどのような被害が生じたかをご存じですか。

はい・いいえ
9人 17人

(質問 3 で<はい>と答えた方)

質問 4. ご存じの幸手市内の被害について○を付けてください。また、○を付けた被害は、どのような方法で知りましたか。それぞれ右にお書きください。(複数選択可)

1. 本震による家屋等の倒壊…… 8人
2. 余震による家屋等の倒壊…… 4人
3. 液状化現象…………… 2人
4. デマによる混乱…………… 3人
5. その他…………… 1人 (東京からの避難民)

質問 5. 神明神社 (埼玉県幸手市中2-1-5、東武日光線幸手駅付近) の存在をご存じですか。

はい・いいえ
69人 21人

(質問 5 で<はい>と答えた方)

質問 6. 神明神社の境内に建つ石碑の1つが関東大震災に関する

記述であることをご存じですか。

はい・いいえ
10人 59人

(質問 6 で<はい>と答えた方)

質問 7. この石碑の碑文をご覧になったことはありますか。

はい・いいえ
8人 2人

(質問 7 で<はい>と答えた方)

質問 8. どのような方法で、この石碑の碑文をご覧になりましたか。(複数選択可)

1. 神明神社を訪れて…………… 8人
2. 『幸手町のかたりべ 第一集 関東大震災編』を閲覧…… 0人
3. 『幸手の石造物 I 幸手地区』を閲覧…………… 1人 (著者ご本人)
4. その他の方法で…………… 1人 (遊び場だった)

(質問7で<はい>と答えた方 (8人のうち))

質問9. … (複数選択可)

1. 震災当日の天候…………… 3人
2. 本震による揺れ…………… 2人
3. 本震による家屋の倒壊… 3人
4. 幸手町内の死者数…………… 3人
5. 余震に関すること…………… 2人
6. 神明神社の拝殿や社殿の大破…………… 2人
7. 神明神社の復興…………… 2人
8. 碑文を見たことはあるけれど内容までは知らない…………… 5人
9. その他…………… 0人

質問10. 神明神社以外に、幸手市内に建つ関東大震災に関して記された石碑の存在をご存じでしたら、具体的な場所をお書きください。

- ・浅間神社 (幸手市北2-4-28) …………… 3人
- ・権現堂堤 (幸手市大字内国府間887番地3) …… 2人
- ・神宮寺 (幸手市南2-3-19) …………… 1人
- ・幸宮神社 (幸手市中4-11-30) …………… 1人
- ・関宿 (千葉県野田市) …………… 1人

質問11. 「関東大震災による幸手市内の被害」について記されている文献の中で、ご存じのものに○を付けてください。(複数選択可)

1. 幸手町のかたりべ 第一集 関東大震災編 …… 6人
2. 幸手市史 通史編 …………… 5人
3. 幸手市史 近・現代資料編 …………… 5人
4. 幸手市史 自然環境編 …………… 2人
5. 関東地震に関する論文 (※) …………… 0人
6. その他 …………… 3人

(『久喜・幸手・蓮田の百年』、教育委員会の郷土史)

(※) ……「歴史地震」第33号(歴史地震研究会 2018年7月発行)に掲載されている『幸手町のかたりべ』に記された埼玉県幸手市における1923年関東地震

質問12. 日頃からご家庭で取り組んでいる地震への備えがございましたら、お書きください。

- ・非常用持ち出し袋の準備
- ・水や食料、ラジオ(持ち出し袋は所持してなく、単体で準備)

質問13. 差し支えなければ、年齢と性別について、それぞれ○を付けてください。

20歳未満		20代		30代		40代		50代		60代		70代以上		男性		女性
1人		2人		7人		11人		10人		14人		23人				

(正面碑文) 神明社拝殿新築記念碑

回顧スレバ去ル大正十二年ハ春來気温例年ニ比シテ稍高ク時々蒸熱ヲ催ス九月一日ハ未明ヨリ南ノ風雨強烈ニシテ暴風雨ノ兆候ヲ呈セシガ午前十一時三十分頃ニ至リテ風ノ雨俄ニ歇ミ蒸熱殊ニ堪ヘ難ク暗雲低迷シテ何處トモナク陰慘ノ氣ニ充テリ全十一時五十七分突如上下ノ震動ト共ニ大地震起リ瓦石飛ビ沙塵卷キ老若男女ノ叫ビ家屋倒潰ノ響キ騒然轟然到ル處忽焉トシテ阿鼻叫喚ノ巷ト化ス即チ全町戸數一千餘戸ノ内約參百六十戸ハ一瞬ニシテ全潰シ半潰大破セルモノ過半数ニ達ス即死者九名重輕傷者三十餘ノ名ヲ算シ凄絶慘絶全町遽然トシテ一大修羅場ヲ現出ス其慘状筆舌ノ能ク及ブ所ニアラズ實ニ是レ関東地方ニ於ケル前古未曾有ノ大震災ナリ而モ餘震ハ大小強弱頻々トシテ連続シ各自其居ニ安ズルコト能ハズ戰々兢々トシテ屋外ニ避難スルコト數晝夜ニ及ベリ當神明社拝殿モ亦此厄ニ遇フテ倒潰セリ本社ハ辛ウジテ全潰ヲ免レタルモ大破セシニヨリ直ニ應急修理ヲ加ヘ尚拝殿ノ建立ヲ策シタルモ如何セン當町内ハ被害激甚ヲ極メタルヲ以テ財力之ニ伴ナハズ故ニ先ヅ敬神崇祖ノ大義ニ基ヅキ拝殿新築奉賛會ヲ組織シ五箇年計畫ノ方策ヲ樹シテ毎月會員ノ醵金ヲ蓄積シテ茲ニ金參千四百八拾圓七拾錢特志寄附金參百壹圓六拾七錢其他町内積立金等ヲ以テ昭和三年七月工ヲ起シ全年十一月ノ完成ス而シテ拝殿新築費金參千七百五拾貳圓八拾八錢記念碑建設費金四百三拾七圓貳拾八錢ヲ費セリ時偶千歳一遇ノ御大典奉祝ニ際シ町内ノ民衆一同神前ニ參拜シ木ノ香床シキ新拜殿ノ壯觀ヲ仰グコトヲ得タルハ是レ即チ神明懿徳ノ然ラシムル所ニシテハ好箇ノ記念トナリ一ハ其光榮ヲ慶ブモノナリ聊カ梗概ヲ記シ以テ後昆ニ傳フ昭和四年四月二十一日建 一色賢山敬書 (「/」は改行を表す)

(碑文の要約) 大正12年9月1日は、未明から南風と雨が強かったが11時30分頃になると、雨は収まったが蒸し暑く、暗く低い雲が垂れ込めていた。11時57分に突如上下動を伴う大地震が発生した。瓦が飛び、砂塵が舞って、人々の叫び声と家屋の倒壊する音が響いて、辺りは騒然としていた。その結果、旧幸手町内の1000戸余りの家屋のうち、約360戸が一瞬にして全壊し、半壊や大破した家屋は500戸以上にのぼった。死者は9名で、重軽傷者は30名余りにのぼった。これは、関東地方における未曾有の大震災であった。その上、様々な強さの余震が立て続けに起きたため、安心して屋内に居られず数日の間、屋外に避難していた。当神明神社の拝殿も被害を受けて、倒壊した。本殿は辛うじて倒壊を免れたが、大破したため応急的な修理を施した。拝殿の建立を計画したが、旧幸手町は甚大な被害を受けたため、拝殿を建て直すお金が無かった。そのため、「拝殿新築奉賛会」を組織して、五カ年計画の方策を立てた。会員などの募金により、ついに3480円70銭、特志寄附金301円67銭、そのほか町内の積立金などを用いて、昭和3年7月に着工し、同年11月に竣工した。こうして拝殿新築費3752円88銭、記念碑建立費437円28銭を費やした。聞いたあらすじを記すことで子孫に伝える。



以上の引用

篠田海遥・他，2018，『幸手町のかたりべ』に記された埼玉県幸手市における1923年関東地震，歴史地震，第33号

【謝辞】 島村泉里氏、遠藤匠人氏、宮崎和至氏をはじめとする本校理科研究部の生徒には、アンケート調査およびポスターの作成に協力を頂いた。